洗足徒然日記

今回のテーマは芸術鑑賞会です。私たちが観に行った作品は谷桃子バレエ団演じる「白鳥の湖」です。「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」の 3 作品はチャイコフスキーの三大バレエとして知られています。

私たち洗足生は毎年芸術鑑賞会で様々な作品を鑑賞します。私たちは中学三年間で、宝塚の「舞音―MANON―」、バレエ「眠れる森の美女」、「白鳥の湖」の三作を鑑賞しました。

「白鳥の湖」は永遠の愛をテーマとした、王子ジークフリードと、昼は白鳥、夜は人間の姿になるという魔法をかけられた美しいオデット姫との恋の話です。

その中でも特に印象に残った場面は、オデットの対となる存在の黒鳥オディールが王子と踊るシーンです。32 回にわたるグラン・フェッテという回転する動きはとても迫力があり引き付けられました。事前学習でオデットとオディールは一人二役ということを学んでいたので、あまりに違う役柄を演じ分けるバレリーナの演技力にも驚きました。

また、この作品内に出てくる衣装もとても美しく、作品を作り上げる要素の一つなんだなと実感しました。特に素敵だなと思った衣装はスペインの踊りの時の衣装で、黒と赤の色合いがスペインという国を上手く表現しているなと思いました。

ラストのシーンでは、破られた愛の誓いを嘆くオデットに王子は許しを請います。そこに悪魔が現れ王子と戦います。激しい戦いの末、王子は悪魔を打ち破りますが、オデットの呪いは解けず、二人は湖に身を投げます。このシーンは、予想外で初めは驚きましたが、天国で永遠の愛を手に入れたという結末に感動しました。

この作品は、すべてのシーンが見逃せないと思うほど引き付けられ、素晴らしい音楽に、ドラマティックな内容、すべてのバレエの動きが凝縮されている振り付け、多彩なマイム、丁寧に作りこまれた衣装など、非常に魅力的な要素が詰め込まれていていました。

私たちも、休憩時間になると周りの生徒たちと作品について話し合ったり、これからどうなるのかを話し合ったりと、興味津々で鑑賞していました。

この鑑賞会をきっかけにこれを読んでくださっている皆さまがバレエや様々な芸術に興味を持っていただければと思います。